

僕の歩んできた道を「振り返り」 僕の前に道はできる！

＜令和4年2月7日(月) 全校朝会＞

来月3月1日に卒業式、3月16日に終業式を迎えます。いよいよ令和3年度もゴールが見えてきました。

さて、この1年間の皆さんの学校生活を振り返ってみましょう。

＜1年間の学校生活 スライドショー—視聴＞

さて、いかがだったでしょうか。

私は、部活動の顧問をしていた時分は、大会等で負けていつまでもくよくよしている子ども達に、「いつまで後ろを振り返って暗い顔するな。前を見て進もう。新しい目標に向かって気持ちを切り換えよう。」などと、よく鼓舞していたものです。

このように、一般的に「振り返る」ということは、過去の失敗や思い通りにいかなかった結果をあきらめきれないで後悔したり、過去の栄光や良き思い出に浸ることばかりに執着し過ぎたりするなど、どちらかと言えばマイナスのイメージで使われることも多いようです。

しかし、本当の「振り返り」とは、これまでの出来事や自分の言動を思い返して整理すること。そして、今後の成長や発展につなげるために過去を省みることに。さらに、これまでの言動から工夫や改善できることを前向きに探していく作業へと続く、未来思考の大切なプロセスであるべきです。

ですから、明らかに、「振り返り」と「反省」は違います。「反省」は自分の過ちや失敗を思い返して、それで本当によくないところがなかったかどうかを考えてみることにとどまるものです。

さて、新潟市の目指す授業づくりにおいても、この「振り返り」がとても重要です。「何がわかり、何ができるようになったのか」をまとめるだけでは不十分で、授業の終末の「振り返り」こそが、確かな学力の獲得への重要なポイントになります。

なぜなら「振り返り」を通して、その時間での自らの学びを自覚できるようになり、その時間の学びをより確かなものにできるからです。

例えば、具体的な授業の終末での「振り返り」の姿として、次のような内容が挙げられます。

- ◇みんなで話し合った結果、私は〇〇だということが新たに分かった。
- ◇ネットで深く調べたら、ぼくが初めに予想したとおりで、自分の考えに確信がもてた。
- ◇リズムよく助走することを意識したら、強く踏み切れるようになった。
- ◇〇〇さんの意見を聞いて、別の考え方や見方がたくさんあることに気がついた。
- ◇比喩の表現を上手に使う理由を述べる文章を書いたら、自分の考えを納得してもらえた。
- ◇初めに提示された問題の解き方を参考に、似たような問題も解くことができた。

授業での「振り返り」とは、自らの学びを自覚できるようにすること、言い換えれば、自らの学びを深く落とし込むということです。

授業だけではありません。例えば、友だちとケンカして、親や先生に叱られて「反省」しろと言われて、とにかく悪いことはしたのは事実だからと、その場だけで友だちと形だけの仲直りをしたとしても、また同じ失敗を繰り返すはずです。

しっかり「振り返り」をして、自分はこれからどうあるべきかと、自分自身が心から納得できる形で、ストーンと自分の心に落とし込まないと何も変わらないのです。

詩人高村光太郎は、あの有名な詩「道程」の冒頭で、『僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる』とうたっています。これは、「自らの進む道は自分の力で切り拓いていくのだ。その歩みが「人生」という一本の道となる。」という意味が込められています。

皆さんの学校生活は、さながら『僕の歩んできた道を振り返り 僕の前に道はできる』ではないでしょうか。

さあ、令和3年度もラストスパート。しっかりと『振り返り』を通して有終の美を飾れるような2月、3月にしてください。